

報 道 資 料

平成 23 年 12 月 27 日

公立大学法人奈良県立医科大学
法人企画部 研究推進課 池谷・岡本
TEL：(代表) 0744-22-3051 内線：2555、2553

管理下でない国際規制物資の発見について

平成 23 年 10 月 15 日に、県水道局が御所浄水場で国際規制物資である酢酸ウラニルを発見したとの発表を受け、本学においても、管理下でない国際規制物資の施設内調査を 10 月から 12 月にかけて実施しました。

その結果、下記のとおり、管理下でない国際規制物資が 5 か所から発見されました。これらについては、現在、安全を確認した上で、所定の金庫若しくは指紋認証システムで施錠管理する貯蔵室に保管しています。

記

1 発見された国際規制物資について

硝酸ウラニル、酢酸ウラニル及び酸化トリウムについて、それぞれ試薬ビン 4 本、7 本、3 本、計 14 本が発見されました。

2 発生原因

今回発見された国際規制物資は、古いもので昭和 30 年代に購入されたものと思われませんが、当時は、一定量以下であれば一般の試薬として研究者各々の管理に委ねられていました。

昭和 52 年に関係法令が改正され、一定量以下の国際規制物資についても、改正以降購入する場合は使用許可が必要となり、本学はその手続きを行いました。しかしながら、今回発見された国際規制物資については、その存在が認識されず、その後、保管されたまま使用されることもなく今日に至ったものと考えられます。

3 発見された国際規制物資による影響

今回発見された核燃料物質の放射線量は、距離 30cm という非常に接近したところで最大 0.35 マイクロシーベルト/時 (0.73 ミリシーベルト/年に相当：週 40 時間及び年 52 週で計算) であり、いずれの場所も研究者が年間を通じ常駐するところではなく、一般公衆の線量限度 (1.0 ミリシーベルト/年) にも至っていません。かつ、廊下部では最大 0.07 マイクロシーベルト/時とバックグラウンドのレベルでした。

従って、附属病院の患者等への影響は全くなく、本学の学生及び教職員等の健康への影響もないと考えられます。

4 今後の対応(再発防止策)

(1)教育・啓発の充実

現在、R I実験施設利用者全員に対し、少なくとも年1回は受講できるよう教育訓練を実施していますが、今後は、それに加え、学内の研究者に対し、核燃料物質の教育を実施することとします。

(2)全学的な安全管理体制の構築

現在、大学と病院、それぞれで放射線の安全管理を行っていますが、今後は、必要に応じ、双方の放射線安全委員会が合同で放射線の安全管理に関する企画・立案を行うこととします。

又、教員等が異動や退職する際には、関連する薬品、物品等を整理し、不要なものは処分するよう、学内に周知徹底を行うこととします。

5 管理下でない国際規制物資の個々の発見状況等

個々の発見状況は、別紙「管理下でない国際規制物資の発見状況等一覧」のとおりです。

又、[発見場所の位置図及び発見された国際規制物資の写真](#)も参考資料として添付しています。

6 その他

管理下でない放射性同位元素の発見については、11月15日に、別途、発表済みです。

(別紙)

管理下でない国際規制物資の発見状況等一覧 <No.1>

1. 発見場所・日時	
(1)場所	附属病院 B病棟 3階 病院病理部 肉眼標本保存室内 毒劇物薬倉庫
(2)日時	平成23年10月26日 13時頃
2. 発見した国際規制物資	
(1)試薬名	硝酸ウラニル
(2)数量	試薬ビン3本
(3)開封の有無	開封済み:2本(内容量:①12g、②16g) 未開封:1本(内容量:③25g)
(4)製造元	①:片山化学工業株式会社 ②、③:三津和化学薬品株式会社
(5)製造年月日等	①:昭和40年10月頃 ②、③:昭和47年7月頃
3. 放射線量 (単位:マイクロシーベルト/時)	
(1)試薬ビン前(距離1cm)	1. 23
(2)試薬ビン前(距離30cm)	0. 15
(3)廊下	0. 04
4. 現在の保管状況	
	二重のビニール袋に密閉し、施錠できる核燃料物質の計量管理責任者(解剖学第二教授)室内の施錠できる金庫で保管

(別紙)

管理下でない国際規制物資の発見状況等一覧 <No.2>

1. 発見場所・日時	
(1)場所	大学 臨床医学校舎 4階 内科学第三 第5研究室
(2)日時	平成23年11月21日 11時30分頃
2. 発見した国際規制物資	
(1)試薬名	酢酸ウラニル
(2)数量	試薬ビン2本
(3)開封の有無	未開封:2本(内容量:各25g)
(4)製造元	キンダ化学株
(5)製造年月日等	昭和59年12月及び昭和61年12月に製造元が輸入
3. 放射線量 (単位:マイクロシーベルト/時)	
(1)試薬ビン前(距離1cm)	0.94
(2)試薬ビン前(距離30cm)	0.08
(3)廊下	0.07
4. 現在の保管状況	
	二重のビニール袋に密閉し、施錠できる核燃料物質の計量管理責任者(解剖学第二教授)室内の施錠できる金庫で保管

(別紙)

管理下でない国際規制物資の発見状況等一覧 <No.3>

1. 発見場所・日時	
(1)場所	大学 臨床医学校舎 3階 小児科学 第1研究室
(2)日時	平成23年11月21日 15時30分頃
2. 発見した国際規制物資	
(1)試薬名	酸化トリウム
(2)数量	試薬ビン1本
(3)開封の有無	未開封(内容量:25g)
(4)製造元	三津和化学薬品㈱
(5)製造年月日等	昭和41年2月頃、製造元が仕入
3. 放射線量 (単位:マイクロシーベルト/時)	
(1)試薬ビン前(距離1cm)	12.30
(2)試薬ビン前(距離30cm)	0.35
(3)廊下	0.07
4. 現在の保管状況	
	二重のビニール袋に密閉し、総合研究棟5階の指紋認証システムで施錠管理しているR I貯蔵室内の保管庫で保管

(別紙)

管理下 ない 国際規制物資の発見状況等 一覧 <No.4>

1. 発見場所・日時		
(1)場所	附属病院 管理棟 3階 病理診断学 第1研究室	
(2)日時	平成23年12月13日 14時45分頃	平成23年12月15日 13時45分頃
2. 発見した国際規制物資		
(1)試薬名	①：硝酸ウラニル ②、③：酸化トリウム	酢酸ウラニル
(2)数量	①：試薬ビン1本 ②、③：試薬ビン2本	試薬ビン4本
(3)開封の有無	開封済み (内容量：①22g、②8g、③20g)	未開封 (内容量：各 28.3g)
(4)製造元	①：林純薬工業(株) ②③：三津和化学薬品(株)	Mallinckrodt chemical works U.S.A
(5)製造年月日等	①：不明 ②：昭和34年3月頃 ③：昭和34年10月頃	不明
3. 放射線量 (単位:マイクロシーベルト/時)		
(1)試薬ビン前 (距離1cm)	①：0.52 ②、③：17.80	1.46
(2)試薬ビン前 (距離30cm)	①：0.06 ②、③：0.33	0.08
(3)廊下	①：0.06 ②、③：0.06	0.06
4. 現在の保管状況		
	①：二重のビニール袋に密閉し、施錠できる核燃料物質の計量管理責任者(解剖学第二教授)室内の施錠できる金庫で保管 ②、③：二重のビニール袋に密閉し、総合研究棟5階の指紋認証システムで施錠管理しているRI貯蔵室内の保管庫で保管	二重のビニール袋に密閉し、施錠できる核燃料物質の計量管理責任者(解剖学第二教授)室内の施錠できる金庫で保管

(別紙)

管理下 ない 国際規制物資の発見状況等 一覧 <No.5>

1. 発見場所・日時	
(1)場所	大学 臨床医学校舎 2階 泌尿器科学 第2研究室
(2)日時	平成23年12月15日 11時30分頃
2. 発見した国際規制物資	
(1)試薬名	酢酸ウラニル
(2)数量	試薬ビン1本
(3)開封の有無	未開封(内容量:25g)
(4)製造元	林純薬工業株
(5)製造年月日等	昭和40年頃
3. 放射線量 (単位:マイクロシーベルト/時)	
(1)試薬ビン前(距離1cm)	0.45
(2)試薬ビン前(距離30cm)	0.10
(3)廊下	0.07
4. 現在の保管状況	
	二重のビニール袋に密閉し、施錠できる核燃料物質の計量管理責任者(解剖学第二教授)室内の施錠できる金庫で保管

